
第9回

「未来を強くする子育てプロジェクト」

のご紹介

「未来を強くする子育てプロジェクト」では、「子育て支援活動の表彰」と「女性研究者への支援」の2つの公募事業を柱として、すこやかな子育てと夢のある未来づくりを応援しています。



子育て支援活動の表彰

より良い子育て環境づくりに取り組む個人・団体を募集します。各地域の参考になる特徴的な子育て支援活動を社会に広く紹介し、他地域への普及を促すことで、子育て環境を整備し、子育て不安を払拭することを目的としています。また、東日本大震災の復興応援のため、特別賞を設けています。



女性研究者への支援

育児のため研究の継続が困難となっている女性研究者および、育児を行いながら研究を続けている女性研究者が、研究環境や生活環境を維持・継続するための助成金を支給します。人文・社会科学分野における萌芽的な研究の発展に期待する助成です。

目次

「未来を強くする子育てプロジェクト」のご紹介	2
ごあいさつ	3
講評	4
子育て支援活動の表彰	6
女性研究者への支援	25
第6回(2012年度)受賞者最終報告	30
第8回受賞者のご紹介	34

ごあいさつ

橋本 雅博

住友生命保険相互会社
取締役 代表執行役社長



住友生命は、お客さまをはじめとするすべての方々が、さまざまなライフイベントを楽しみ、豊かで明るい人生を送れるように応援したいと考えております。そうした想いから、生命保険事業と親和性が高い「子育て支援」「次世代応援」「健康増進」を社会貢献活動の3つの重点分野として、積極的な取組みを進めています。

そのひとつである「子育て支援」事業の大きな柱が、「未来を強くする子育てプロジェクト」です。このプロジェクトは、住友生命の創業100周年記念事業として、平成19年より開始し、今回で9回目を迎えております。これまでに表彰させていただいた子育て支援活動は95組、女性研究者の皆さまは91名となりました。

子育て支援活動の表彰では、各地域の参考となる特徴的な子育て支援活動を社会に広く紹介し、他地域への普及を促すことで、子育て環境を整備することを目的としています。

また、女性研究者への支援では、社会的な支援が少ないといわれている人文・社会科学分野の女性研究者の皆さまへ育児と研究の両立のための助成金を支給し、研究の継続をサポートしています。

こうした子育て支援事業への取組みは、現在の日本において、女性活躍推進や日本の人口構造の変化、地方創生等多くの社会問題と切り離すことのできないとても大切なものであると考えております。

住友生命では、子育て支援への取組みをさらに進めるために、本プロジェクトに加え、小学生の放課後の生活の場である学童保育等への支援事業「スミセイアフタースクールプロジェクト」を昨年度より開始し、このプロジェクトは、厚生労働省主催の「第4回健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）」において厚生労働大臣最優秀賞を受賞いたしました。

住友生命では、これからも、皆さまとともに、子どもたちの未来を明るく強いものとするために取り組んでいきたいと考えております。

選考結果

第9回「未来を強くする子育てプロジェクト」では、2015年7月から9月までの間、「子育て支援活動の表彰」「女性研究者への支援」の2部門の募集をいたしました。「子育て支援活動の表彰」には187組、「女性研究者への支援」には123名のご応募をいただきました。

選考委員による審査を経て各部門の受賞者が決定しました。

表彰数

15組

応募数
187組

子育て支援活動の表彰

- 文部科学大臣賞／スミセイ未来大賞の1組に授与
- 厚生労働大臣賞／スミセイ未来大賞の1組に授与
- スミセイ未来大賞／2組
- スミセイ未来賞／10組
- スミセイ震災復興応援特別賞／3組

表彰数

10名

応募数
123名

女性研究者への支援

- スミセイ女性研究者奨励賞／10名

講 評

「未来を強くする子育てプロジェクト」選考委員



〔選考委員長〕 **汐見 稔幸** 白梅学園大学学長、東京大学名誉教授



今回の「子育て支援活動の表彰」には、長きにわたって活動を継続してこられた団体とともに、時代の新たなニーズに応えるべく活動を開始したフレッシュな団体からも数多くのご応募をいただきました。さまざまな形の子育て支援活動が広がって、日本社会がこれまでとはまた違った様相を見せ始める、そうしたことを強く予見させるようなたいへん意義深い選考となりました。

また、真に豊かな社会・文化を創造するうえでは、文系の研究も重要で、その意味でも本プロジェクトの「女性研究者への支援」は、単に女性研究者を支援するといったこと以上に、大きな社会的意味を持った内容になっていると感じています。

〔選考委員〕 **大日向 雅美** 恵泉女学園大学大学院 平和学研究科教授



「女性研究者への支援」の選考を通じて、今回ふたつのことを強く感じました。まず、育児と研究の両立を図る女性研究者のたくましさあらためて実感する一方で、国を挙げて女性の活躍促進に取り組んでいる今日、女性たちのまわりに山積する社会的な問題を再検討・解決していくことの重要性について深く考えさせられました。

もうひとつは、人文・社会科学分野への支援を行う本プロジェクトの意義の大きさです。大学における教養・教育科目のあり方が議論されるなかで、今回ご応募いただいた方々はそれぞれに意義深くかつ多様なテーマに真摯に取り組んでおられ、そのことをとても頼もしく感じました。今はまだ萌芽的な研究段階にあるかも知れませんが、5年後、10年後に大きく花開くことを信じ、期待したいと思います。

〔選考委員〕 **奥山 千鶴子** 特定非営利活動法人びーのびーの理事長



最近では、活動歴が10年、20年を超える団体も珍しくなくなってきました。そして今回ご応募いただいたなかには、長期間にわたって地道に実績を積み重ねるなかで、時代の変化や参加者のニーズに合わせて活動内容のさらなる拡充に取り組まれているケース、あるいは元々は他分野で活動をしていた団体が、自らの専門性を活かして新たに子育て支援に挑戦されるケースなども多く見受けられました。

2015年4月から国の「子ども・子育て支援新制度」がスタートしたこともあり、子育て支援活動もまたひとつの転換期を迎えつつあるとの印象を持つと同時に、継続性と意欲を兼ね備えた団体の活動が、モデルとなって広がっていくことを願って、受賞団体を選ばせていただきました。



〔選考委員〕 **米田 佐知子** 子どもの未来サポートオフィス代表



私たちの「子育て支援活動の表彰」には、より良い子育て環境をつくるという面とともに、生まれてきた命を大切に育むという側面もあると考えています。そうした意味で今回は、従来の子育て支援活動に加えて、対象者は少なくとも重い病気や障がいなどの困難を抱える子どもたちやご家族に寄り添い、息長く活動をしてこられた団体への応援というメッセージを込められたと感じます。

活動を続けていくうえでは、さまざまな課題があるかと思います。受賞を通じて、皆様の素晴らしい活動がより広く知られ、その活動を応援してくれる人たちが少しでも増えていってくれたなら、選考に携わる者としてこれ以上うれしいことはありません。

〔選考委員〕 **本城 正哉** 住友生命保険相互会社 取締役 代表執行役専務



子育て支援活動の表彰部門では、特別なニーズをもつ子どもたちとご家族への支援活動が多く見受けられ、そのほとんどは、長年にわたり継続されているものでした。なかなか支援が届きにくい子どもたちとご家族へ寄り添ってきた活動に心より敬意を表したいと思います。そして、同様な活動が全国へ広がっていくことを願っています。

女性研究者への支援部門では、着実に研究を重ねている女性研究者の皆さまの力強さを感じる一方で、研究と子育ての両立を支える環境が未だ十分ではないことを痛感いたしました。このプロジェクトで支援させていただく皆さまのご活躍が、あとに続く女性研究者の皆さまの道標となることを願っています。



「子育て支援活動受賞団体」 のご紹介

08



スマセイ未来大賞・文部科学大臣賞

特定非営利活動法人
てんやく絵本ふれあい文庫

10



スマセイ未来大賞・厚生労働大臣賞

特定非営利活動法人
療育ファミリーサポートほほえみ

12



スマセイ未来賞

特定非営利活動法人 うりずん

13



スマセイ未来賞

特定非営利活動法人
かわね来風^{ライフ} ママ宅事業部

14



スマセイ未来賞

ぐるぐるアート 世話人会

15



スマセイ未来賞

元気アートプロジェクト

16



スマセイ未来賞

特定非営利活動法人 シェイクハンス

17



スマセイ未来賞

しぶたね
(きょうだい支援たねまきプロジェクト)

18



スマセイ未来賞

特定非営利活動法人 そらいろプロジェクト京都

19



スマセイ未来賞

特定非営利活動法人 ダルク女性ハウス

20



スマセイ未来賞

特定非営利活動法人
発達凸凹サポートデザインかたつむり

21



スマセイ未来賞

特定非営利活動法人 余市教育福祉村

22



スマセイ震災復興応援特別賞

こおりやま福来^{ふっこう}応援隊

23



スマセイ震災復興応援特別賞

特定非営利活動法人 こそだてシップ

24



スマセイ震災復興応援特別賞

東日本大震災圏域創生NPOセンター
「いしのまき寺子屋」



スミセイ
未来大賞・
文部科学大臣賞

特定非営利活動法人 てんやく絵本ふれあい文庫

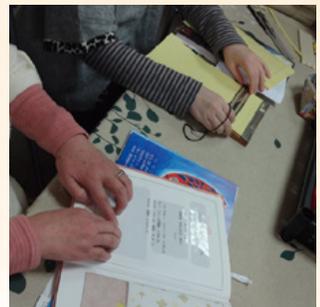
大阪府大阪市 代表者：岩田 美津子

「てんやく絵本」の製作・貸出・普及を通じて、
誰もが絵本を楽しむことのできる環境づくりを



活動
内容

目の見えなお母さんがおさまと一緒に話も絵も楽しめる
「てんやく絵本」を作って日本中に届けています



受賞の言葉

「我が子と絵本を楽しみたい」という思いは、目の見えない親であっても同じです。ふれあい文庫では、150名のボランティアとともに、周囲の人々に支えられながら、てんやく絵本と点字つき絵本の普及に努めています。今回の受賞を励みに、子育て中の視覚障がい者のために、更に努力を重ねていきたいと考えています。

名称 特定非営利活動法人 てんやく絵本ふれあい文庫

活動開始 1984年4月

スタッフ 職員3名 ボランティア150名

連絡先 〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1丁目25-35近商ビル2F TEL.06-6444-0133

視覚障がい者も楽しむことのできる

「てんやく絵本」を製作

絵本は子どもの心を豊かに育む大切な子育てツールのひとつです。しかし通常の絵本では、視覚障がいを持つ親とその子どもと一緒に楽しむことは難しく、また、今でこそ点字つきの絵本も徐々に出版されつつありますが、かつてはほとんど見られないものでした。そこで私たちは、視覚障がいの有無を問わず誰もが絵本を楽しめる環境を整えるために、市販の絵本に塩化ビニール製のシートを貼りつけて文字と絵に点訳をほどこす「てんやく絵本」の製作・貸出を中心とした活動を、30年以上にわたって続けてきました。

多くのボランティアの協力を得て、年間350冊ペースで製作してきた「てんやく絵本」の蔵書は今では10,000冊を超え、絵本を必要とする全国のご家族、そして学校や図書館などに郵送による貸出サービスを行っています（当時の郵政省への3年にわたる働きかけにより、1987年より「てんやく絵本」の無料郵送が実現しました）。

貸出希望者に合った絵本を選ぶのも大事な仕事

視覚障がい者には絵本の情報が届きにくく、貸出に際しては、自ら手にとって選ぶことのできな



い利用希望者に代わって、好みや過去の貸出履歴、そして子どもの性別や年齢を踏まえてぴったりの絵本を選んであげる「選書」もまた、私たちの重要な仕事になります。

絵本は手づくりの布袋に入れて送っていますが、返却時には、借りたご家族からお礼の手紙が添えられていることもあり、大変うれしく思うとともに、この活動の意義を強く実感する瞬間でもあります。

点字つき絵本の認知度と理解をもっと高めたい

「てんやく絵本」の数をどれだけ多くそろえようとも、その貸出だけでは、視覚障がい者にとっては決して十分な環境とはいえません。そのため私たちは、大手の絵本出版社の協力を得て「点字つき絵本の出版と普及を考える会」を立ち上げ、その活動の結果、点字つき絵本の出版が増えるなどの成果もあげてきました。今後も絵本展への出展やワークショップの開催を通じて点字つき絵本の認知度をさらに高め、誰もが絵本とともに子育てを楽しむことのできる環境を広く整えていきたいと考えています。

注釈 ●てんやく絵本：市販の絵本にシートを貼り付け、点字や絵の凹凸を表現するもの

●点字つき絵本：出版の段階で点字や絵の凹凸が施されているもの



スミセイ
未来大賞・
厚生労働大臣賞

特定非営利活動法人 療育ファミリーサポートほほえみ

沖縄県島尻郡南風原町 代表者：福峯 静香

重度障がい児のファミリーサポートと お子さまを亡くされた家族のグリーフケアを実施



活動
内容

重い障がいをもつお子さまと
その家族のファミリーサポートや、親の会支援、
お子さまを亡くされた後のグリーフケアを行っています



受賞の言葉

このたびは、スミセイ未来大賞という素晴らしい賞をいただき、大変感謝しております。障がいをもつ長男を亡くした後、同じような障がいをもつお子さまのご家族を支援してきましたが、逆に励まされ、支えられて活動を続けてきました。多くの支援者と共にこれからも社会を支えるための活動を続けていきます。ありがとうございました。

名称	特定非営利活動法人 療育ファミリーサポートほほえみ
活動開始	2004年9月
スタッフ	10名
連絡先	〒901-1113 沖縄県島尻郡南風原町字喜屋武380-1 4-A TEL.090-9781-8966

「ファミリーサポート」と 「グリーフケア」を中心に活動

近年、重度の障がいを持った子どもたちが、日常的に医療的なケアを受けながら自宅で過ごすケースが増えています。私たちは、そうしたご家庭に対して看護師などの資格を有したボランティアスタッフを派遣し、子どもたちの見守りや送迎のお手伝いをする活動（ファミリーサポート事業と呼んでいます）を行っています。同時に、お子さまを亡くされたご家族のケアにも取り組んでおり、グリーフケアの啓発を行っています。

サポートを必要とするご家族と公的支援との橋渡し

私たちが活動を開始した当初は、障がいを持った子どもやそのご家族を支えるサービスは、県内にはほとんどない状況でした。そのような中で、見守りや送迎といった直接的なサポートを積極的に行ってきた結果、公的支援の充実などが図られるようになったことには一定の手ごたえを感じています。

福祉事業所などの機関とご家族とを丁寧につなぐことで、子どもを安心して地域に託すことのできる環境づくりも進めてきましたが、支援に関する



情報が、必要としている方たちの手に届いていないという新たな課題も浮き彫りになっています。そこで現在は、療育ファミリー応援雑誌「Family」を発刊するなど情報発信活動にも力を入れており、この雑誌は県内の医療機関や特別支援学校などに無償で配布しています。

障がいを持った子どもたちが 社会に存在する意義を伝えたい

障がいを持った子どもとご家族に対するサポート体制が徐々に整いつつある沖縄県中・南部地域に対して、北部地域に関しては公的支援もまだまだ不足している感が否めません。北部地域でも同様のサポートが受けられるように、直接的な支援を行う一方で公的支援の開拓と充実を促していくことが、今後の目標のひとつです。

また、新型出生前診断の登場によって現在、命の選別につながりかねない難しい問題がクローズアップされています。私たちは、ファミリーサポートや、子どもを亡くしたご家族のグリーフケアに取り組む中で、障がいを持った子どもたちが社会に与える影響をつぶさに見て、そして直接肌で感じてきました。この経験を活かして、障がいを持った子どもが社会に存在する意義についても世に問いかけていきたいと考えています。





スミセイ
未来賞

特定非営利活動法人 うりずん

栃木県宇都宮市 代表者：高橋 昭彦

医療依存度の高い子どもを預かり、
ご家族にひと時の安心・安全・安楽を提供

活動
内容

人工呼吸器や経管栄養などの医療的ケアが必要な重症障がい児者を日中お預かりし、家族にひと時の休息をお届けするレスパイトケア事業を行っています



名称	特定非営利活動法人 うりずん
活動開始	2008年4月
スタッフ	14名
連絡先	<p>現住所 〒321-2118 栃木県宇都宮市新里町丙357-14 TEL.028-601-7733</p> <p>移転後 (2016年4月) 〒321-2117 栃木県宇都宮市徳次郎町365-1 TEL.028-601-7733</p>

重い障がいを抱えた子どもとご家族のために

医学の進歩に伴い数多くの幼い命が救われる一方で、人工呼吸器や経管栄養などの医療的ケアを必要とする子どもたちが増えています。そしてそこには同時に、周囲から十分な支援を得ることのできない環境の中で孤立し、やがて疲弊していくご家族の介護の厳しい現実があります。私たち「うりずん」は、医療依存度の高い心身障がい児をお預かりし、ご家族にひと時の安心・安全・安楽をお届けする活動を行っています。

より多くの利用希望者の受け皿になりたい

栃木県内には重度の障がいを抱える子どもに対応できる施設が少ないため、宇都宮市だけでなく、

周辺の日光市や鹿沼市などからも利用者が訪れています。「うりずん」では現在、約30名の日中お預かりと、約15名の居宅介護を行っています。増え続けるニーズに対応するため、今後は放課後デイサービスや居宅訪問型保育などにも活動の幅を広げていきたいと考えています。

ご家族の喜びの声が何よりの励み

施設を開設してから7年間にわたり、子どもたちには必要な医療的ケアと楽しいイベントを、そしてご家族にはひと時の休息を提供してきました。その間、介護の負担から解放されたご家族からは「きょうだいの学校行事に参加することができた」「次の子どもを妊娠・出産することができた」といったうれしい便りが次々と届けられており、そうした声は、私たちが活動を続けていく上で何よりの励みになっています。

受賞の言葉

このたびは身にあまる賞をいただき厚く御礼申し上げます。医学の進歩により多くの幼い「いのち」が救われる一方、医療に依存して生きる子どもたちが増えています。「うりずん」は、より多くのニーズに対応できるよう「新たな拠点」へ移転します。受賞を励みに、これからも子どもたちとご家族に「安心」と「安全」、そして「楽しいひと時」をお届けしてまいります。



スマセイ
未来賞

特定非営利活動法人 かわね来風 ライフ —ママ宅事業部—

静岡県榛原郡川根本町 代表者：前田 孝一

地域の中で孤立しがちな高齢者と
ママたちを、お弁当の宅配を通じてつなぐ

活動
内容

『ママ&子どもが高齢者にお弁当などを届ける・・・』ママ世代にしかできない社会貢献を子どもと一緒に楽しんでいます



名称	特定非営利活動法人 かわね来風 —ママ宅事業部—
活動開始	2012年6月
スタッフ	4名 配達ママ&ベビー 18組
連絡先	〒428-0313 静岡県榛原郡川根本町上長尾1056-2 TEL.080-1562-1520

ママと高齢者のマッチングで、地域が抱える 2つの課題を解決

静岡県川根本町は高齢化率が非常に高く、加えて山間部に位置するため、高齢者にとって移動や買い物が困難であり、孤立しがちになるといった問題を抱えています。また、過疎化・少子化が進む環境の中、ママたちの孤立化も大きな問題となっていました。私たちが行っている、子育て中のママが子どもを連れて高齢者宅にお弁当をお届けする「ママ宅事業」は、地域が抱える2つの問題を同時に解決することに貢献しています。

お弁当の宅配を通じた世代間交流

定期的高齢者宅を訪問する「ママ宅事業」は、高齢者の見守りといった側面もそなえています。また、交流の場が少なく家に引きこもりがちなママたちにとって、外出と地域貢献を兼ねたお弁当の

宅配はかっこの気分転換にもなっているようです。子どもとふれあえることを楽しみに待っている高齢者も多く、お弁当を届ける側・受け取る側の双方にメリットのある活動としてご好評をいただいています。

ママが笑顔になれば、子どもも笑顔になる

私たちの活動のもう一つ大きな柱に、ママたちが気軽に参加できるイベントや講座を企画・開催する「ママ活事業」があります。「ママ活」への参加をきっかけにして、「ママ宅」に興味を持ってくれるケースも多く、2つの活動の間には相乗効果も生まれています。「ママが笑顔になれば、子どもも笑顔になる」をモットーに、これからも、ママたちが輝ける環境をつくっていきたいと思っています。

受賞の言葉

私たちは、4世代が助け合って暮らす地域づくりの一つとして「ママ宅」を行っており、この受賞により、多くの方に知っていただく機会になるとみんなで喜んでいきます。優しい子どもを日本中で育てることが私たちの未来を強く明るくする。そして「ママ宅」の活動はそれにつながると考えています。本当にありがとうございました。



スマイ
未来賞

ぐるぐるアート 世話人会

鳥取県米子市 代表者：松下 喜美子

「ありがとう」の言葉でつなぐ 感謝の心を育むアート教室

活動
内容

小中学校、高校、児童クラブに出向き「ぐるぐるアート」の描き方指導を行っています。完成した作品を集め、毎年展覧会を開催しています

名称 ぐるぐるアート 世話人会

活動開始 2001年6月

スタッフ 45名

連絡先 〒683-0043
鳥取県米子市末広町150
TEL.0859-35-8964

「ぐるぐるアート=心を育む活動」です

ぐるぐるアートとは、マンダラ絵に着想を得たアート手法です。「ありがとう」の文字を渦巻き状につなげて描き、文字を色分けすることでデザインを浮かび上がらせていきます。描き方はとても簡単ですが、制作を通じて子どもたちは、家族や友人、自然や社会といった身の回りのあらゆるものから、いかに多くの恩恵を受けているかに気づきます。その意味でぐるぐるアートは、子どもたちの心を育む活動でもあるのです。

感謝の心を楽しみながら学べます

心を育むと言っても決して堅苦しいものではありません。ぐるぐるアートを体験すれば、感謝する心の大切さを、楽しみながら自然と学ぶことができます。照れもあって最初は戸惑う子どもたちも、い



ぞ描き始めると感謝の言葉がどんどん出てきて、またたく間に作品を完成させてしまいます。紙とペンがあれば誰でもどこでも手軽にできる点もまた、ぐるぐるアートの大きな魅力です。

ぐるぐるアートの輪が広がっています

近所の子どもたちを対象に小規模な形で始まったぐるぐるアートですが、その後たくさんの賛同と協力を得て、数多くの学校やサロン、イベントなどでも教室が開催されています。これまでに13,000人を超える子どもたちが体験し、近年では海外にも展開されています。また2001年から毎年、鳥根県立美術館にて「ぐるぐるアート展」を開催しており、こちらもおかげさまでたいへんご好評をいただいています。

受賞の言葉

～アートが育む人の力～をテーマに、次代を担う子どもたちに感謝の心を育みたいと活動を続けてまいりました。活動を評価していただきありがとうございます。受賞を機に指導者を増やし、組織の構築・充実を図り、ぐるぐるアートの輪を広げてまいりたいと思います。



スマセイ
未来賞

元気アートプロジェクト

福岡県福岡市 代表者：川崎 恵子

つらい病気と闘う子どもたちを、 アートの力で元気づけたい

活動
内容

デザイナーや音楽家が集まり、
優しさと思いやりの大切さを
共有しながら、病気の子どもたちを
元気づける活動を行っています



名称	元気アートプロジェクト
活動開始	2006年8月
スタッフ	46名
連絡先	〒815-0071 福岡県福岡市南区平和1-21-70 松隈設計事務所内 TEL.092-526-5061

デザイナーや音楽家などによる 長期入院児応援プロジェクト

九州大学病院の小児医療センターには重い病気の子どもたちが多数入院し、つらい治療の合間に保育や学校教育を受けています。日々病気と闘う子どもたちをアートの力で少しでも元気づけたいという呼びかけに、デザイナー、音楽家、建築家、写真家、書家などさまざまな分野の専門家が賛同して、私たちの「元気アートプロジェクト(GAP)」は結成されました。

体だけでなく心も豊かに成長してもらいたい

院内学級においてデザインや音楽の授業を行ったり、入院児のためにコンサートやワークショップを開いたり、GAPの活動はさまざまです。デザイン授業では一人ひとりが作品づくりにチャレンジしま

す。音楽授業では楽器に触れて音を出すなど、子どもたちが生き生きとした時を過ごせるよう工夫を凝らしています。このようなアートとのふれあいは大切な成長期を病院で過ごす子どもたちの情操教育にも役立っています。

みんなが持つ「優しい気持ち」が、支援の輪として 広がることを願って

GAPの活動は特別難しいものではありません。現地のデザイナーや専門家が少しずつ力を合わせることで、大きな費用や人員を割くことなく全国各地でも、そして質の高い支援を行うことができます。ここ福岡だけでなく、つらい療養の日々を過ごしている子どもたちは全国にたくさんいます。アートの力で子どもたちを元気にするGAPの活動が広く知られることで、同様の取組みが多くの病院で行われるようになることを願っています。

受賞の言葉

活動10年目の節目に夢のある“スマセイ未来賞”をいただき感謝しています。病気と闘っている子どもたちをアートの力で少しでも元気づけたい。試行錯誤を重ねながら活動する私たちは、実は子どもたちの小さな“笑顔”にいつも元気づけられています。全国のデザイナーや音楽家たちにこの活動の輪が広がることを願ってやみません。



スミセイ
未来賞

特定非営利活動法人 シェイクハンズ

愛知県犬山市 代表者：松本 里美

多様な困難を抱える外国籍の子どもと親のための学習支援・地域交流活動

活動
内容

多様な困難を抱えながら頑張っている子どもたちに、日本語や学習の支援をし、体験交流の場もつくり、未来が広がるよう活動しています



名称 特定非営利活動法人 シェイクハンズ

活動開始 2005年4月

スタッフ 16名

連絡先 〒484-0087
愛知県犬山市字若宮80
TEL.0568-39-5266
(平日16時以降、土・日13時まで)

地域に根差した国際交流

外国籍の住民が数多く暮らす愛知県の犬山・小牧地域には、言葉の壁にぶつかって学校に馴染めず、授業にもついていくことのできない子どもたちが少なくありません。学校や保育園側でも対応に苦慮している中、私たちシェイクハンズは、そうした子どもたちのための放課後の居場所づくりと学習支援を中心に、親世代も含めた外国籍住民と地域住民との交流活動などを行っています。

幅広い活動で、外国籍の子どもや発達障がい児などをサポート

私たちの寺子屋では、幅広い子どもたちに対して学習支援を行っています。たとえば寺子屋に通う子どもたちの中には、発達障がいを持った子どももいるため、そうした子どもたちを対象にした特別なク

ラスなども設けています。子どもたちの年齢や日本語の習熟程度、そして障がいの有無といった個性の違いを踏まえたさまざまなクラスを週6回にわたって開催することで、多様な困難を抱える外国籍住民を広くサポートすべく日々奮闘しています。

少しずつ成果が出はじめています

放課後の短い時間だけで、目に見える成果を得ることは決して簡単ではありません。それでも、ここに通う子どもたちの学習意欲と進学率は確実に上がっていますし、なかには難関大学に合格する子どもも出てきています。そのように努力して夢をつかみ取った子どもたちが「希望の星」となり、次に続く子どもたちの目標やお手本になってくれればと、願っています。

受賞の言葉

外国につながる子どもたちと、それを取り巻く環境に、泣き笑いの日々ですが、賞をいただいて心より感謝です。私たちの活動を広く知っていただける上、スタッフや地元組織など、支えていただいている多くの方々にも報告でき、活動の追い風になることを期待します。同時に、ずっと継続していかなければと、心が引き締まる思いです。



スマセイ
未来賞

しぶたね (きょうだい支援たねまきプロジェクト)

大阪府大東市 代表者：清田 悠代

病気を持つ子どもの「きょうだい」が 主役となれる居場所づくり

活動
内容

きょうだいたちが、
たくさんの人の温かな気持ちに包まれて
大きくなれるよう、みんなで支え合える場を
増やそうとしています



名称	しぶたね (きょうだい支援たねまきプロジェクト)
活動開始	2003年11月
スタッフ	4名 ボランティア約50名
連絡先	E-MAIL. sbtn0311-toiawase@yahoo.co.jp

病児のきょうだいにスポットを当てた活動

子どもが重い病気にかかるると親の目はどうしても病児に集中し、残されたきょうだいは心に大きな不安や孤独感を抱えながら子ども時代を過ごすこととなります。実際に小児病棟では、感染予防のため病棟の外で寂しそうに親を待つ幼いきょうだいたちの姿を目にすることも珍しくありません。私たち「しぶたね」は、ともすると見過ごしがちな「きょうだい」にスポットを当てた活動を行っている団体です。

きょうだいたちが主役となって楽しむ日

私たちが定期的に開催している「きょうだいの日」では文字どおり、その日一日は病児のきょうだいたちが主役となり、さまざまなアクティビティを楽しみます。この「きょうだいの日」は、同じ境遇にある子どもたちが出会い、そして思いを共有する場

にもなっています。それと併せて、面会中の親を待つきょうだいたちの居場所づくりと楽しみの提供を兼ねた院内での活動も積極的に行っています。

きょうだい支援の意義を広く伝えたい

病気の子どもの親を対象にした支援活動は増えつつありますが、残された幼いきょうだいたちを目を向けた活動はまだまだ少ないのが現状です。そこで現在は、「きょうだいの日」の開催や病院内での活動と並行して、講演や寄稿、小冊子の製作・配布といった活動にも力を入れています。こうした啓発活動を通じて、きょうだい支援の「たね」が広く全国に根づき、そして芽が出ることを願っています。

受賞の言葉

きょうだいたちを応援していただき、とてもうれしく励まされます。大人でも抱えきれないようなさまざまな気持ちとともに育っていく子どもたちが、まるごと受け止められる安心感の中で「子ども時代」を大切に生きられるよう、とびきり大事にされた温かな記憶が残るよう、これからも活動を続けます。



スミセイ
未来賞

特定非営利活動法人 そらいろプロジェクト京都

京都府京都市 代表者：赤松 隆滋

発達障がいを持った子どもたちのための ヘアカット「スマイルカット」を実施

活動
内容

発達障がいを持つ子どもたち
一人ひとりの歩幅に合わせ、
ゆっくりとヘアカットを練習していきます

名称 特定非営利活動法人
そらいろプロジェクト京都

活動開始 2008年4月

スタッフ 18名

連絡先 〒612-8432
京都府京都市伏見区深草柴田屋敷町
23-22 ピースオブヘア内
TEL.075-642-2115



たちは納得し、落ち着いて施術を受けてくれます。
スマイルカットの最大の特徴は、子どもたちの個性
と歩幅に合わせながらゆっくりと、ともに「卒業
(一人で髪を切ってもらえるようになること)」を目
指していく点にあります。

発達障がい児のためのヘアカット

理美容室で髪を切ってもらおう——。一見当たり前の
このように感じられるこの行為が、なかなか思
うようにできない子どもたちが、実は世の中にはた
くさんいます。私たちは、理美容室の椅子にじっと
座って髪を切ってもらうことが苦手な発達障がい
児のためのヘアカット「スマイルカット」を実施す
るとともに、この取組みに対する理解と協力を社
会に広げるための啓発活動を行っています。

一人ひとりの個性と歩幅に合わせて

長時間座っていられなかったり、ハサミやバリカ
ンの音に敏感だったり、発達障がいを持った子たち
が苦手とすることはさまざまです。しかし、イラ
ストやタイマーを用いるなどしてヘアカットの流れ
をきちんと説明してあげることで、多くの子ども

スマイルカットの輪を広げたい

私たちの活動に賛同し、スマイルカットに取り組
んでくれる仲間は徐々に増えつつありますが、それ
でもまだ数は少なく、受け入れ態勢は十分とは言
えません。スマイルカットの輪を全国に広げるこ
とで、発達障がいを持った子どもたちがいつでもど
こでも当たり前ヘアカットができるような環境
を整えていきたいと考えています。

受賞の言葉

子どもたちの可能性は無敵大です。医療・教育等さま
ざまな分野のプロが一步理解を深めることで、みんなが
暮らしやすい優しい世の中になるはず。「スマイルカ
ット」で笑顔の花をたくさん咲かせられるよう、今回の受
賞を励みに、これからも真摯に活動していきたいと思
います。ありがとうございました。



スミセイ
未来賞

特定非営利活動法人 ダルク女性ハウス

東京都北区 代表者：上岡 陽江

依存症の女性とその子どもを、 社会につないでいくための支援活動

活動
内容

毎月の料理教室の他、
スクールソーシャルワーカーや小児科医との
相談懇談会、デイキャンプ等を通じて
孤立しがちな母子を支援します



名称	特定非営利活動法人 ダルク女性ハウス 母子プログラム
活動開始	2004年(団体としては1991年)
スタッフ	常勤1名 非常勤3名
連絡先	〒114-0014 東京都北区田端6-3-18 ビラカミムラ301号

女性と子どもに焦点を当てた、 依存症からの回復・自立支援

ダルク女性ハウスは、薬物・アルコール依存症女性の回復と自立をサポートすることを目的に設立された、日本で最初の民間施設です。女性の場合、幼少期のネグレクトやパートナーからの暴力などが原因で依存症になるケースが多く、自分の子どもに対しても同様に振る舞ってしまうことが少なくありません。そうした負の連鎖を断ち切るべく、ダルク女性ハウスでは母子が良好な関係を築いていくためのさまざまな支援活動を行っています。

一緒に時間を過ごすことで、 親子の心の距離が近づく

2004年から開始した「母子プログラム」では、母子がそろって過ごすことのできる場所と機会を提供しています。一緒に料理をしたり、遠足や日帰

りキャンプに出かけたり、あるいはアーティストによるワークショップに参加することによって、欠落しがちなコミュニケーションが図られるとともに、互いを理解し合うことで母子の心の距離も自然と縮まります。

継続性を持ったサポートの重要性

施設を出たあとスムーズに社会復帰できるように、医師、看護師、精神保健福祉士、スクールソーシャルワーカーなど多くの専門家と連携して支援のネットワークをつくるなど、複合的かつ継続的なサポートを続けてきました。社会復帰した女性が自らの経験を活かして、サポートする側にまわってくれるケースなどもあり、長期的視点に立った支援が少しずつ実を結びつつあることに確かな手応えを感じています。

受賞の言葉

2004年の活動開始以来、母子が孤立せずに安心して過ごせる場を提供してきました。自分の心の傷を癒しながら子育てをする母親たちには、医師・スクールソーシャルワーカー・精神保健福祉士等の専門家がサポートし、新たな虐待や非行を防ぐ活動が不可欠です。受賞を契機にこうした活動が更に広がりを持つことを期待します。



スミセイ
未来賞

特定非営利活動法人 発達凸凹サポートデザインかたつむり

東京都八王子市 代表者：西村 南海子

公的支援の手が届きにくい、発達に凸凹のある子どもとその家族を支える活動

活動
内容

発達に凸凹を抱える子とそこをご家族を
ライフステージにわたって、
先輩ママ=ピアメンターが
家族視点からサポートしています



名称 特定非営利活動法人
発達凸凹サポートデザインかたつむり

活動開始 2006年(前身の親の会から)

スタッフ 理事4名 認定ピアメンター12名
会員75家族

連絡先 〒192-0916
東京都八王子市みなみ野1-7-1-212
TEL.042-683-0507

発達に凸凹のある子どもとその家族を、 当事者目線でサポート

発達に凸凹のある子ども(発達障がいまたは類似する特性を抱える子ども)たちを取り巻く環境は、いまだに多くの誤解や偏見に満ちあふれています。同時に、そうした子どもを持つ親に対する理解や支援も十分とは言えません。同じ悩みを抱える母親同士の「親の会」としてスタートした発達凸凹サポートデザインかたつむりは、当事者目線から、凸凹のある子どもとその家族をサポートする活動を行っています。

経験豊かなピアメンターたちが活躍

当事者目線・家族視点を大切にする私たちの活動では、ピアメンターという資格を持ったスタッフ

が重要な役割を担っています。ピアメンターとは「ピア(仲間)」と「メンター(助言者)」を組み合わせた造語で、凸凹のある子どもを育てた経験を持つ先輩ママがピアメンターとなり、経験者だからこそわかる強みを活かして、子育てに悩む若いママたちの良き相談相手となっています。

じっくりと地道な支援を

活動開始当初から行ってきたカフェ事業(情報交換や悩み相談)と並行して現在は、子どもたちの日々の学習を支援する「キッズラボ」、ならびに野外活動を始めたとした体験型プログラムを提供する「ソーシャルラボ」といった取組みにも力を注いでいます。発達に凸凹のある子どもたちが持つ大きな可能性や素晴らしい特性をじっくりと育てため活動の、これからも地道に続けていきたいと考えています。

受賞の言葉

親の会から始まって10年、NPO法人となって3年が経ちました。発達凸凹の子や親へのピアサポートには、ライフステージにわたる多角的なサポートの必要を感じています。この受賞を機に、先輩ママ=ピアメンターの支援活動の充実と幅を広げ、一つの専門職として地域の中に浸透させ、確立していきます。



スミセイ
未来賞

特定非営利活動法人 余市教育福祉村

北海道余市郡余市町 代表者：菊地 大

余市の農場で、フリースクールなどに 通う子どもたちに豊かな自然体験を提供

活動
内容

子どもたちの健全な発達支援を目的に、
4.6ヘクタールの農場を利用して、
自然とのふれあいや農作物を育てる活動を
行っています



名称	特定非営利活動法人 余市教育福祉村
活動開始	1995年5月
スタッフ	11名
連絡先	〒046-0002 北海道余市郡余市町登町636 TEL. 0135-23-7236

豊かな自然を活かした支援活動

元々は札幌で不登校などの問題に取り組んでいた有志が中心となって、余市教育福祉村は設立されました。子どもたちの自立支援には農作業を始めとした自然体験が効果的だと考えていた私たちにとって、自然豊かな余市はまさに理想的な環境でした。農場にはブルーベリーを植え、納屋を事務所兼宿泊所に改修するなど手探りで始まった私たちの活動も、今年で21年目を迎えます。

農場は、多くの子どもたちで賑わっています

ここでは、フリースクールの生徒たちを積極的に受け入れて農業指導などを行っています。当初は子どもたちの自立支援を目的とした活動が中心でしたが、現在は農場を利用する人たちの目的も多様化し、たとえば都市部の幼稚園や保育園に通う子

どもたちが農業体験のために訪れることもあれば、家族連れがブルーベリーの収穫のために訪れることもあります。ここでの体験を通じて、子どもたちには心も体も健やかに育ってほしいと願っています。

新たな取組みも始まっています

地元の高校と連携してハーブ教室を開いたり、味噌や豆腐をつくる体験型のアクティビティを提供したり、あるいは震災の被災者を農場に招待してひと夏を過ごしてもらうなど、これまでの農業体験とは違った、新たな活動も動き出しています。これからも地域の方々や若者たちの力を借りて、余市の豊かな自然を活かした独自の子育て支援活動を続けていきたいと思っています。

受賞の言葉

不登校・引きこもりなどの青少年の居場所づくりから始まって20年の“集い”を昨年行いました。今では小樽市・札幌市などの幼稚園・保育園から、大学までの青少年がこの「村」を利用して活動しています。退職教職員など年金生活者が中心になって運営しているため、今回の受賞はたいへん励みになります。ありがとうございました。



スミセイ
震災復興
応援特別賞

こおりやま福来^{ふっこう}応援隊

福島県郡山市 代表者：遠宮 昭則

「社会のために何かしたい」という想いを、 子どもたちが主体となって形にする

活動
内容

大人社会を巻き込みながら、
子どもたちの“夢”や“想い”を実現していく
活動支援型の「寄り添いのキャリア教育活動」
を行っています



名称	こおりやま福来応援隊
活動開始	2014年4月
スタッフ	メンター5名 保護者5名
連絡先	〒963-0723 福島県郡山市田村町桜ヶ丘二丁目144番地 TEL.080-5551-7879

子どもたちが主役です

こおりやま福来応援隊の活動は、3人の小学5年生が発起人となり、「自分たちでできる震災復興活動」としてスタートしました。必要に応じて大人がサポートすることもあります。基本的には、事業の企画立案から実行までを担うのはすべて子どもたちです。活動に参加する子どもたちからは、チャレンジしてみたいことのアイディアが次々と出てきて、その発想の豊かさにはいつも驚かされます。

活動を通じて培った自主性や実行力が大きな財産

これまでに、子ども商店街でのご当地グルメの開発を始め、子どもラジオ、子ども応援CM、子ども農場、被災地への研修旅行といった活動を行ってきました。子どもたちの手によるユニークな取組みということで、メディアから取材を受けることも少な

くありません。しかしそれ以上に大きな財産は、多彩な活動を通じて得た自主性や実行力などであり、こうしたスキルは、子どもたちが次のステージに進んだ際にも必ず役立つものと思います。

子どもと大人が一体となった新しい子育ての形

福島県には震災に伴う問題がまだ山積していますが、子どもたちが主体となりながら、親子が一緒になってさまざまな問題の解決に取り組む私たちの活動は、単に震災からの復興支援という枠にとどまるものではないと考えています。言うなれば、大人を巻き込みながら子どもたちの自主性を育む、そんな新しい子育ての形になるのではないかと期待しています。

受賞の言葉

3人が蒔いた“希望の種”は、この2年間で芽となり花を咲かせ、私たち大人の目にも留まるくらいの背伸びをした“福来の木”になろうとしています。木は、きっと森の道標になっていくでしょう。震災から5年目になろうとする福島において、子どもたちが描いた未来への夢や希望の活動は、何よりも頼もしく、そして愛おしく感じています。



スマセイ
震災復興
応援特別賞

特定非営利活動法人 こそだてシップ

岩手県大船渡市 代表者：伊藤 怜子

助産師が中心となって取り組む、 子育てのしやすいまちづくり

活動
内容

妊婦や乳幼児とその保護者を対象に、助産師が参加して、安全、安心な育児を支援する。被災地のまちづくりの一助となる活動の展開



名称 特定非営利活動法人 こそだてシップ

活動開始 2011年9月

スタッフ 12名

連絡先 〒022-0002
岩手県大船渡市盛町字町10-11
TEL.0192-47-5689

気仙地域を、安心して子育てできるまちにしたい

大船渡市、陸前高田市、住田町からなる気仙地域には元々、出産のできる病院が1カ所しかなく、そこに震災による甚大な被害が重なったことで、産前産後の母子を取り巻く環境はさらに厳しいものとなりました。この気仙地域を、お母さんや赤ちゃんが安心して暮らすことのできるまちにするために、助産師が中心となって、サロンを始めとした子育て支援活動を行っています。

ゼロからスタートしたサロン活動も今では充実

震災後、行政による新生児訪問もままならなかった時期から、仮設住宅を1軒1軒まわって「ママサロン」への参加を呼びかけるなど、孤立した母子や困難を抱えた家族の掘り起こしを継続的に行ってきました。現在は、助産師のほかに看護師、保育

士、歯科衛生士等の協力を得てサロン活動はますます充実するとともに、「こそだてシップ」を卒業したお母さんたちが今度はスタッフとして活動に参加してくれるなど、地域の中に支え合う仕組みも生まれています。

地域の中で頼られる存在に

行政からの委託を受けて、地元の商業施設の中に常設の子育て支援室「すくすくルーム」も開設しました。こうした子育てに関する取組みが広く知られるに従い、「出産や育児のことなら、こそだてシップ」という認識が地域の中に根づきつつあることを日々実感しています。これからも引き続き、子育てに優しいまちづくりに努めていきたいと考えています。

受賞の言葉

素晴らしい賞をいただき、ありがとうございます。ご支援くださった皆さまに感謝の気持ちでいっぱいです。気仙地域には今も、出産できる病院は一つしかありません。この地域で安心して出産育児ができるよう、私たちは身近なサポートを心がけております。ママたちの笑顔が、子どもや地域の未来も明るくすると信じて活動してまいります。



スミセイ
震災復興
応援特別賞

東日本大震災圏域創生NPOセンター 「いしのまき寺子屋」

宮城県石巻市 代表者：高橋 信行

被災後の行き場のない子どもたちのための、 子どもたちによる居場所づくり

活動
内容

子どもの居場所は子どもの声を紡ぎながら
共に作り、本気で遊び・本気で学び・
本気で傍楽(はたらく)を
モットーに活動しています



名称 東日本大震災圏域創生NPOセンター
「いしのまき寺子屋」

活動開始 2011年4月

スタッフ 常勤2名

連絡先 〒986-0873
宮城県石巻市山下町2-2-48
太陽ビル1号館2階
TEL.0225-22-4804

子ども支援が復興への近道

子どもの元気や笑顔を取り戻すことが復興への近道になると考えた私たちは、震災直後から、子どもたちが安心して過ごすことのできる居場所をつくとともに、彼ら彼女らの声を大事にしながら、学習支援や遊び・アートを絡めたさまざまなプログラムを実施してきました。そうした、子どもたちを中心に据えた避難所運営が、現在の私たちの活動の出発点となっています。

子どもたちの居場所を守り続けるために

復興が進むにつれ避難所は徐々に閉鎖されていきますが、避難所で過ごす時間を心の拠りどころとしていた子どもたちにとって、それは切実な問題でした。そこで私たちは避難所の外に新たな

拠点を設け、「いしのまき寺子屋」として活動を引き継ぐことで、子どもたちの居場所を確保し続けました。ここでも大人が過度に前に出ることはありません。あくまでも子どもたちの自主性を尊重し、その成長を温かく見守っています。

子どもたちの夢の実現に向けて

いしのまき寺子屋の子どもたちには「みんなの家をつくりたい」という大きな夢があります。その夢をかなえるために現在は、地域の方々や大学生ボランティアと一緒に子どもたちがいつでも遊びに来られる場所、「こども王国」の建設を進めています。居住エリアと農場が隣接しているので、宿泊を伴った活動なども行えるようになり、子どもたちの遊びと学びの幅はさらに広がるものと期待しています。

受賞の言葉

子どもたちの声一つひとつに耳を傾け、どん底から立ち上がりました。子どもたちの呟いた言葉の意図を読み込むと、それは困難を乗り越える指針でもあり、未来への希望につながるものでした。この受賞は、多くの皆さまの寄り添いがあったからです。彼らの心づくしが称えられたことは、復興に疲れ切った方々へのエールにもなると思います。



スミセイ
女性研究者
奨励賞

アリポヴァ カモラ

京都大学大学院
人間・環境学研究所



研究
テーマ

近代日本における国語の成立
- 仮名遣改定^{づかい}という問題に着目して -

内容

1900年初頭、日本の小学校で初めて「国語」という科目が登場した。そこにおいて仮名遣改定^{づかい}を実施しようとしたが、これは漢字の使用を減らし、主になかな文字によって文章を書こうとしたものである。本研究では、仮名遣改定^{づかい}について議論が行われた文献を調べることにより、「国語」がどのように子どもたちに教えられようとしたのか、その社会的状況と照らし合わせながら考察し、近代日本における国語の歴史の解明を試みたい。

受賞の言葉
私は、2006年来日し、留学生として日本の大学院に入学しました。しかし、在籍中に2度の出産をはさんだことで、やや研究が長引いている状況にありました。今年、大学院を満期退学しましたが、日本に残り研究を継続することを強く希望しておりました。育児中の女性研究者を支える本助成の対象に選んでいただいたおかげで、経済的な条件をクリアすることができ、研究を続けることが可能になりました。心から感謝いたします。ありがとうございます。

岩瀬 裕子

首都大学東京大学院
人文科学研究科 社会人類学



研究
テーマ

スポーツと伝統文化のはざま
- スペイン・カタルーニャ州の「人間の塔」を事例として -

内容

スペイン・カタルーニャ州には、人が人の肩の上ののぼる「人間の塔」があり、200年以上の「伝統」があるとされる。近年、その「高さ」を競いあうスポーツ化が進む一方で、それに反対する流れもある。人びとは「人間の塔」を継続するために、「伝統文化」と「スポーツ」のあいだで揺れながらも、いかなる工夫を試みているのか。「より高く」といった「成長」を危惧する動きや認識は、「成長」を余儀なくされる現代社会をも照らし出すことを考察する。

受賞の言葉
このたびは選定いただき、誠にありがとうございました。連絡を受けた際は、受話器の前で何度も何度も「ありがとうございます」と頭を垂れている自分がおりました。社会人を経て大学院に進学したことで、育児と研究を両立する上でも焦りがありましたが、「研究を続けていいんだよ」と背中を押していただけたようで勇気づけられました。娘との二度とは来ない時間を大切にしつつ、自らの問題意識に向き合い研究に邁進したいと思えます。



スミセイ
女性研究者
奨励賞

植 朗子

神戸大学大学院
国際文化学研究推進センター



研究
テーマ

ドイツ語圏の民間伝承における「こども」の表象と救済

内容

本研究は、「こどもの生きる権利」を明らかにすることを目的とし、民間伝承資料における「こどもの生と死」の表象と、「こども」の救済に注目する。19世紀ドイツにおいてグリム兄弟が編纂した、伝承と古法律の記録を中心に、子どもの命の所有権に関する史の変遷を追う。そして、胎児実験、小児臓器移植、優生主義などの現代の問題へつながるテーマとして、「子捨て・子殺し」伝承の系譜、「こども」の救済の話型分析を取り扱う。

受賞
の言葉

研究をもう一歩進めていきたいと思いつつながら、子育てとの両立に自信が持てない。そんな葛藤の中での受賞となりました。スミセイ女性研究者奨励賞に選んでいただけたことをとても光栄に思います。これまで、家族、大学・大学院時代の先生、友人たちに励ましてもらいながら続けてきた研究が、この助成を機に、さらに新しい成果になりそうです。子育てと研究を諦めたくない研究者の皆さまのロールモデルになることができるよう、努力いたします。

白神 晃子

信州大学
地域戦略センター



研究
テーマ

地域における障がい児・者および
関係機関の防災意識と災害時対策

内容

阪神・淡路大震災や東日本大震災では、障がい者の死亡率の高さ、避難生活での困難など、多くの課題が改めて明らかになった。その対策には多角的な取り組みが求められる。本研究では、地域の障がい児・者および関係機関・団体における防災意識と対策状況を明らかにし、障がい種別や地域の実情を踏まえた個別の課題を抽出する。その上で、当事者および支援者と協働し、自助・共助・公助における現実的な対策を提案することを目指す。

受賞
の言葉

研究を続けたいとの思いだけで、出産後は常に何足かのわらじを履き続けてきました。仕事をしながら研究も子育てもあきらめずに来られたのは、離れて暮らす夫や両親、子どもたちの先生やシッターさん、研究室や職場のサポートのおかげです。本助成を有効に活用して、支えてくれる方や同じ道を選ぶ研究者に「大丈夫だよ」と言えるだけの環境を整えたいと思っています。このようなチャンスをいただき、ありがとうございました。

田村 彩子

京都市立大学大学院
文学研究科 学術研究員



研究 テーマ

中国民間伝承における歴史観の研究

内容

中国歴史小説の研究では、『三国志演義』のみが先行しており、それ以外の作品群については、「文学的価値が低い」とみなされ、ほとんど研究がされてこなかった。しかし、それらの作品が果たした、啓蒙や娯楽などの働きや、人々の思考に与えた影響は、研究に値すると思われる。本研究は、「もう一つの歴史」ともいべき歴史物語の一群を体系化し、「正史」や「史実」とは異なる歴史観を明らかにすることを旨とする。

受賞の言葉 研究と育児の両立には常に不安と葛藤があり、生活のことを考えて何度も研究を諦めるという選択肢が浮かびました。このたび助成対象に選んでいただいたことで、研究を続けることに対して前向きな気持ちになることができました。本当にありがとうございました。自分を支援してくださった方々への感謝を忘れず、がんばっていきたく思います。

林 淳子

東京大学大学院
人文社会系研究科



研究 テーマ

日本語コミュニケーションにおける疑問文の役割
－疑問文多機能化の通時的分析を通して－

内容

現代日本語のコミュニケーションにおいて疑問文が果たす役割は、他言語や古代日本語のそれよりも幅広い。その詳細を明らかにすることは、日本人の言語行動の個性を明らかにするだけでなく、異文化間コミュニケーションの円滑化にも有効である。本研究では、現代日本語の疑問文に特有の役割である「自問風疑問表明(ダロウカ)」「応諾反応要求(シヨウカ)」に注目し、これらが日本語文法体系の変遷の中でどのように成立したかを明らかにする。

受賞の言葉 受賞により、小さい頃から「ママのお仕事はお勉強」と理解し、慌ただしい生活につきあってくれた娘をやっと少し安心させてあげられたように思います。ひとり親として娘を育てながら、時間をかけて基礎研究に取り組む生活は体力面でも精神面でもハードですが、先生方や研究室の仲間、家族のおかげでなんとか続けてこられました。支えてくださる方々にいつか恩返しができるよう、より一層研究に励んでまいります。



スミセイ
女性研究者
奨励賞

ペク ルン
白 凜

東京大学大学院
総合文化研究科 地域文化研究専攻



研究
テーマ

戦後の在日コリアン美術
-1945年から1960年代の造形・運動・史料を中心に-

内容

「在日コリアン」とは、世界大戦期に、日本に移住した朝鮮半島出身者とその子孫である。この中には美術家を目指した人たちが少なからずいるが、かれ・かのじよらの作品の多くは散逸している。本研究は、その美術作品の収集と関連史料の発掘・分析をおこない、日本と半島の近現代美術における文化交流史研究の発展に務めるものである。戦争が人々にもたらしたものは何か。美術作品の研究を通して戦後の時代検証に貢献したい。

受賞の言葉

このたびは助成対象に選んでいただき誠にありがとうございます。出産後、研究を諦めようと何度も不安になりましたが、今回の受賞により、勇気と希望をいただきました。妊娠、出産がこれほどまでに生活を変えてしまうとは思っていませんでしたが、息子の笑顔、家族、研究仲間、そして、現代社会における育児と女性をテーマにした書籍に支えられてきました。今回の受賞を励みに、育児と研究の両方に一層邁進いたします。

松本 美予

京大大学大学院
アジア・アフリカ地域研究研究科



研究
テーマ

スリランカ農村における人と自然の関係史

内容

本研究では、旧イギリス領のスリランカ農村における人と自然の関係史を、人の定住化開始、植民地化と独立、そして社会経済のグローバル化へと変遷した時代に沿って、明らかにする。調査はフィールドワークと文献調査を中心に進める。また、同じく旧イギリス領であるアフリカのレソト王国においても同様の研究を進めており、将来的にはイギリスによる植民地統治が現在の環境問題にどうつながっているか、比較研究に発展させたい。

受賞の言葉

このたびは助成対象に選んでいただきありがとうございます。これまで、子育てをしながら研究を続けることの困難さばかりに目が行き、それでも子どもを言い訳にしたくない思いとの間でさまざまな葛藤がありました。しかし今回の受賞によって、子育ても研究も、どちらも大切にしたいのだと背中を押していただきました。本助成によるご支援、そして夫をはじめとする家族や周りの方々の支えに感謝しつつ、一層の努力をしてみたいです。

山本 佳奈

広島大学
グローバルキャリアデザインセンター 特別研究員



研究 テーマ

平安時代の儀式と音楽

内容

平安時代史研究において、儀式研究は当時の国家のあり方を解明する上で重要なテーマである。音楽は儀式を構成する要素の一つであり、儀式の意義や運営方式、成立過程や変遷について分析する有効な視点である。本研究では、儀式研究と音楽史研究を融合させ、平安中・後期の宮廷儀礼および、院・摂関家の儀礼の特質と、楽所など各奏楽機関について検討することを通して、平安時代の儀式の体系化を試み国家体制との関わりを考察する。

受賞 の言葉

博士課程在学中に3児を出産し、育児をしながら学位論文を書くのに6年半を要しました。温かく見守ってくださった先生や、協力・応援してくれた家族と子どもたちのおかげで、諦めずに研究を続けられています。昨年末に第四子を出産し、研究時間の確保がますます難しくなる中で今回の受賞の報告を受け、励まされました。子育てと研究の両立を支援して下さることに心から感謝し、研究活動に励み、研究者として成長していきたいと思えます。

吉田 舞

特定非営利活動法人 社会理論・動態研究所
研究員



研究 テーマ

マニラ首都圏におけるストリート・ホームレスと先住民
：労働と居住の視点から

内容

本研究の目的は、フィリピン・マニラで急増しているストリート・ホームレスと、都市に出稼ぎにくる先住民の実態を明らかにすることである。近年、地方における労働市場の変容や、都市開発の影響により、マニラでは、路上に押し出される人々が急増している。そこには、地方から出てきた先住民も多く含まれている。本研究では、特に先住民の路上での「仕事」と「住まい」に着目し、フィリピンのホームレス問題の一端を明らかにする。

受賞 の言葉

博士課程在学中に3人目が生まれ、家族や周囲の方々の理解に支えられ、これまで研究活動を続けてきました。しかし、子どもを連れての学会・研究会への参加、海外調査の実施には、つねに経済的な悩みがありました。このままでは研究活動を控えざるを得ないと考えていたおりに、受賞のお知らせをいただきました。この機会を与えていただき、心から感謝いたします。今後、一層、研究活動に邁進していきたいと存じます。



第6回(2012年度)受賞者最終報告

第6回受賞者の方から、助成期間を終えて研究環境や子育て環境がどのように変わったのかをご報告いただきました

上田 路子

シラキュース大学(アメリカ) 研究助教授
*2016年9月より早稲田大学 准教授

研究継続で得た成果

アメリカ在住の私ですが、本助成のおかげで、日本への長期滞在が可能となり、研究を進めることができました。成果としては、共著本を出版し、第56回日経・経済図書文化賞をいただきました。また、国際学会で発表した論文は、その後英文学術雑誌に掲載されました。

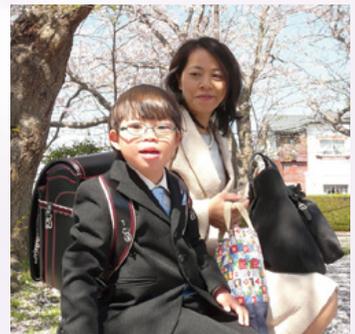


大塚 彩美

横浜国立大学大学院 環境情報学府

育児と研究の両立を取り巻く環境について

本プロジェクト2年目に我が子が小学校に入学しました。支援学級在籍ということで付き添いを要することが多く、大学院へ通学ができない状況が続きました。助成を活用して、在宅作業ができる環境を整えることで、研究の継続と子どものサポートを両立することができました。



コンペル 綾乃

大阪大学大学院 言語文化研究科

育児と研究の両立を取り巻く環境について

以前は、研究と育児の時間を切り離して考えていましたが、本助成により、ワーク・ライフ・バランスを考えられるようになりました。海外調査、宿泊を伴うセミナーや学会には子どもを連れて参加することで、学術交流の場にも積極的に加わることができるようになりました。



島田 恭子

東京大学大学院 医学系研究科 精神保健学分野

研究継続の中での生活環境の変化について

助成中に第3子を出産、現在9歳、5歳、2歳の子育てに奮闘中です。ともすれば自身のワーク・ライフ・バランスを見失いそうになりましたが、同じような境遇の研究者ママたちの存在や、本助成の支援が大きな励みとなりました。おかげさまで2015年3月、無事博士号を取得することができました。



田川 麻央

お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科

研究継続で得た成果

論文の執筆、学会発表、海外調査の時の保育費用に、本助成金を充てることができたことで、まとまった研究時間を確保することができました。おかげで大幅に研究が前進し、博士号の取得、大学への就職も実現することができました。





第6回(2012年度)受賞者最終報告

田村 知栄子

筑波大学大学院 人間総合科学研究科

育児と研究の両立を取り巻く環境について

助成期間中に学位を取得し、学位授与式には家族で出席しました。私が専攻長賞を受賞した姿を見た子どもは、一つのことを一生懸命やり遂げると賞がもらえると思ったようです。最近では、自ら「研究者になって、困っている人たちを助けたい!」と言うようになりました。



津田 久美子

十文字学園女子大学 女子栄養大学 非常勤講師

研究継続の中での生活環境の変化について

出産後、なんとか復職は果たせたものの、育児と仕事との両立に手一杯で、自らの研究にまで時間を回せないことに思い悩む日々でした。本助成のおかげで研究環境は格段に上がり、また助成を受けていることで、所属のない研究者でも働く母として、周囲の理解も得られやすくなりました。



林 みちこ

島根大学 教育学部 嘱託講師

研究継続で得た成果

本助成を受け研究を再開した結果、1年目の終わりに独立行政法人日本学術振興会の特別研究員への採用が決定しました。それにより2年目には母校の筑波大学の博士後期課程に復学を果たし、その後は論文掲載や学会の全国大会での発表などを通し研究者として前進できたと感じております。



原口 春海

神戸大学大学院 システム情報学研究科

研究継続の中での生活環境の変化について

自宅に研究環境を構築する一方、土日に娘連れで研究室に行くことも増えました。研究室の学生たちも最初は戸惑っていたものの、自然とその状況を受け入れてくれるようになりました。子どもと一緒にいる空間の中で、あたりまえのように研究活動が行えたことは幸せなことだと感じています。



若佐 美奈子

京都大学大学院 教育学研究科

育児と研究の両立を取り巻く環境について

助成期間が始まってすぐ出産したため、大学院を1年休学し、論文執筆等の研究活動や臨床活動は継続しました。この助成によって経済的に支えられたからこそ、できた選択です。2年目に復学し、産休中に書いた論文が原著として採択され、このたび、それらの成果を併せて博士論文にまとめることができました。



第8回受賞者のご紹介

第8回「未来を強くする子育てプロジェクト」の表彰式
および懇談会を、2015年2月23日(月)
ホテルニューオータニにおいて開催いたしました。



受賞者と選考委員の記念写真



未来大賞受賞



お子さまと一緒に



受賞者のスピーチ



懇談会の様子

第8回受賞者の近況



子育て支援活動の表彰

練馬ママ漫画ルーム「よんこま」

東京都練馬区 代表者:うえき あやこ

受賞で変わった環境: 事業が全国区へとひろがりました

受賞をきっかけに、取材だけでなく、テレビのスタジオ出演もさせていただきました。子育てママが漫画を楽しむことが社会風潮として受け入れられた感じがします。そのおかげか、全国から同じ事業をやりたいという問い合わせが増え、2015年4月以降、5店舗が始動し、他6店舗で準備予定が進んでいます。できる限りチーム店のフォローをして、事業として拡大していきたいです。



子育て支援活動の表彰

いわて助産師による復興支援まんまる

岩手県花巻市 代表者:佐藤 美代子

受賞で変わった環境: 横とのつながりが増え、地域に根ざした活動に進んでいます

助産師がいる育児サロンということで、地域の託児所や保健師さんが見学に来られたり、市町村の窓口で子育てママさんに案内をしていただいたり、受賞が信頼の後押しとなっております。また、受賞は、スタッフ一同の意欲につながり、被災が大きかった陸前高田市でのサロンの回数を増やしたり、栄養士と協力して食育事業に力を入れたり、活動を広めています。



スミセイ女性研究者奨励賞

松井 生子 昭和薬科大学 非常勤講師

研究テーマ 仏教儀礼が醸成する民族の共生:カンボジア・ベトナム人の宗教的実践と民族間関係に関する人類学的研究

受賞で変わった環境: 子育てと研究の両方がサポートされている安心感を得られました

受賞は、夫や保育園の先生方に研究を理解してもらえるよい機会となり、2年ぶりにカンボジアでの現地調査をおこなったり、平日夕方開催の研究会に参加したりと、研究が大幅に進みました。8月に3歳になった子どもはまだイヤイヤ盛りで、何をしても手間と時間がかかりますが、研究が充実していると、子どもに対して余裕を持って接することができます。本助成によって、子育てと研究の両方がサポートされている安心感を得ることができました。